

ミネソタ州	一九二五年四月八日
メーン州	一九二五年四月一日
ミシシッピ州	一九二八年四月二六日
西ヴァージニア州	一九二九年三月五日
アリゾナ州	一九二九年三月九日
ヴァーモント州	一九三一年三月二日
オクラホマ州	一九三一年四月二二日
南カロライナ州	一九三五年五月一七日
ジョージア州	一九三七年二月二六日

(備考) ネヴァダ州、ニュージャージー州、ニューヨーク州は現在實施し居らず

加 奈 陀

アルバータ州	一九二八年三月二八日
ブリテッシュ・コロンビア州	一九三三年四月七日

ス イ ス

ワード縣	一九二八年九月三日
ベルン縣	一九三一年
デンマーク	一九二九年一月一日
メキシコ	
ペラクルツ州	一九三二年七月六日
獨逸	一九三三年七月二四日
瑞典	一九三四年五月一八日
諸 威	一九三四年六月一日
芬 蘭	一九三五年六月二三日
エストニア	一九三六年十一月二七日

外國優生法實施件數調

ア	男	女	計
メ	二七九五	一七八九五	三〇六九〇
リ	六六六五	六二七六	一二九四一
カ			
内カリフォルニア州			

ヴァージニア州	一三四八	一九一〇	三二五八
カンサス州	一三三〇	八八	二〇四八
ミシガン州	四六四	一四七七	一九四一
ミネソタ州	三三三	一三二〇	一六三三
オレゴン州	四八四	八二三	一、三〇七
ウイスコンシン州	一四八	八六七	一、〇一五

(備考) 其の他の諸州は男女計未滿なり

加奈陀アルバータ州	四八	一五八	二〇六
(一九三五年迄)			
スイス、ワード縣			四六
(一九三四年迄)			
デンマーク			四〇〇
(一九三八年一月一日迄)			
獨逸	二八二八六	二七九五八	五六、二四四
(一九三四年三月三日迄)			
瑞典			二二九
(一九三五年三月三日迄)			

外國優生法實施病類別調(括弧内は總數に對する割合)

總數	九三三	三五	九六八
精神薄弱	二九二〇(三二%)	九六(二%)	三〇一六
精神分裂病	六二四六(六七%)	三三(三%)	六二七九
内 躁 鬱 病	一	二二(四%)	二三
癲 癇 癩 毒	一	九(二%)	一〇
酒 精 中 毒	一	八〇(四%)	八一
病 的 人 格	一	三三(六%)	三四
盲 體 畸 形	一	二(〇%)	二
身 體 畸 形	一	三(〇%)	三
ハンチントン舞蹈病	一	一(〇%)	一
珍らしき遺傳病	一	一(〇%)	一
犯 罪 者	一六(一九%)	一	一七

北米合衆國 獨逸伯林優生裁判所 (一九二九年一月一日迄) (一九三四年五月三〇日迄)

其の他 (五(〇.五%))

外國優生法實施判定調

獨逸(一九三四年末迄)			
申請數	四、九〇三	四、一六二	八、〇六五
斷種可決數	二八、二八六	二七、九五八	五六、二四四
取下及却下數	一	一	二
抗 告 數	一	一	二

厚生省豫防局の公立結核療養所狀況調

厚生省豫防局の發表になる東京市立療養所以下全國三十八箇所の公立結核療養所の狀況調査の中その主要なる數字を掲ぐれば次の如くである。

收容患者定員(昭和十四年三月現在)

既設三十八箇所合計	五、八九四
建設中十六箇所合計	四、七二一
退所事由調(開所以來、昭和十三年三月末迄)	

全 治	一、三六七	五二三	一、八八〇	二・八%
略 治	二、〇三九	九五四	二、九九三	四・五%
輕 快	七、九一八	三、二〇六	一一、一二四	一六・八%
事 故	七、三二二	三、三三六	一〇、六五七	一六・一%
死 亡	二五、七三二	一三、八三三	三九、六〇五	五九・八%
合 計	四四、四一七	二二、八四二	六六、二五九	一〇〇・〇%

(備考) 報告洩れの熊本市立戸馳療養所を除く二十六箇所合計なり

死亡患者年齢別調(昭和十三年度)

一—一〇歳	男	女	計
	七	八	一五

一十一一五歳	四八	七九	一二七
一六一二〇歳	四五〇	三一〇	七六〇
二二一二五歳	五三一	三六三	八九四
二六一三〇歳	三八六	二九九	六八五
三一三三五歳	二六七	一四九	四一六
三六一四〇歳	一六五	七八	二四三
四一一五〇歳	一七〇	六〇	二三〇
五一一六〇歳	五二	二六	七八
六一歳以上	四五	二七	七二
計	二、一二一	一、三九九	三、五二〇

(備考) 前段に同じ

患者一人當經常費調(昭和十三年度)

平均一日	一・九六
平均一箇年	七一五・四〇

(備考) 報告洩れの熊本市立戸馳療養所を除く二十五箇所合計の平均なり

患者一人一日當經常費調(昭和十三年度)

食費	〇・四一二
醫療費	〇・一四八
被服及寢具費	〇・〇一三
その他	〇・二八一
計	〇・八五四

(備考) 前段に同じ

各國結核死亡率累年比較

厚生省豫防局の調査になる日本及び世界主要國の大正元年(一九一二年)以降累年結核死亡率(人口一萬に對する結核死亡)は次の如くである。

各國の人口一萬に對する結核死亡累年比較

年次	日本	英吉利	佛蘭西	伊太利	獨逸	北米	和蘭	白耳義	丁抹
大正元年(一九一二年)	二・九	一・三八	二・二	一・四九	一・五六	一・五〇	一・四四	一・一九	一・三六
二年(一九一三年)	二・〇	一・三五	二・二	一・四九	一・四二	一・四八	一・四二	—	一・二六
三年(一九一四年)	二・二	一・三六	二・二	一・四五	一・三九	一・四七	一・四〇	—	一・三一
四年(一九一五年)	二・三	一・五四	二・二	一・五八	一・四八	一・四六	一・四四	—	一・二五
五年(一九一六年)	二・一	一・五六	二・一	一・六六	一・六二	一・四二	一・六七	—	一・三八
六年(一九一七年)	二・三	一・六六	二・三	一・七五	二・〇六	一・四七	一・八二	—	—
七年(一九一八年)	二・五	一・七三	二・二	二・〇九	二・三〇	一・五〇	二・〇三	—	—
八年(一九一九年)	二・三	一・二六	二・〇	一・七三	二・一	一・二六	一・七三	—	—
九年(一九二〇年)	二・三	一・一三	一・七	一・六〇	一・四	一・一四	一・四七	—	—
十年(一九二一年)	二・三	一・一三	一・九	一・四二	一・三六	一・一	一・二七	—	—
十一年(一九二二年)	二・二	一・一	一・二	一・四〇	一・四	一・一	一・一四	—	—
十二年(一九二三年)	二・〇	一・〇六	—	一・四二	一・五〇	一・四	一・〇五	—	—
十三年(一九二四年)	一・九	一・〇六	—	一・五四	一・二〇	一・〇	一・〇六	—	—
十四年(一九二五年)	一・九	一・〇四	一・五	一・五〇	一・〇六	一・〇	一・〇六	—	—
昭和元年(一九二六年)	一・八	一・〇四	一・五	一・五〇	一・〇六	一・〇	一・〇六	—	—
二年(一九二七年)	一・九	一・〇六	一・六	一・四四	一・〇八	一・〇	一・〇六	—	—
三年(一九二八年)	一・九	一・〇七	一・七	一・三四	一・〇	一・〇	一・〇六	—	—
四年(一九二九年)	一・九	一・〇七	一・七	一・三四	一・〇	一・〇	一・〇六	—	—
五年(一九三〇年)	一・九	一・〇七	一・七	一・三四	一・〇	一・〇	一・〇六	—	—
六年(一九三一年)	一・八	一・〇六	一・六	一・三二	一・〇	一・〇	一・〇六	—	—
七年(一九三二年)	一・八	一・〇六	一・五	一・三一	一・〇	一・〇	一・〇六	—	—
八年(一九三三年)	一・八	一・〇六	一・五	一・三一	一・〇	一・〇	一・〇六	—	—
九年(一九三四年)	一・九	一・〇七	一・六	一・三一	一・〇	一・〇	一・〇六	—	—
十年(一九三五年)	一・九	一・〇七	一・六	一・三一	一・〇	一・〇	一・〇六	—	—
十一年(一九三六年)	二・〇	—	—	—	—	—	—	—	—
十二年(一九三七年)	二・〇	—	—	—	—	—	—	—	—
十三年(一九三八年)	二・〇	—	—	—	—	—	—	—	—

外務省の在支邦人人口數調

外務省の調査になる昭和十五年四月一日現在の中華

民國在留本邦人人口概計、竝に事變直前との比較を掲ぐれば以下の如くである。